

見守られている実感

園長 篠澤 恵理

「外の靴を履いて、見に来て。」と、園庭から職員室にいる私を誘う子がいました。「外の靴を履いて。」という言葉から、近くに来て見てほしいという気持ちが伝わり、すぐに外に出ました。その子は、スイングスリップという遊具を片足に着けて、回しながら跳ぶことに挑戦していました。何度も止まっては繰り返す姿を見守っていると、次第に上手になっていきました。子どもたちは、難しいと思っていることをする時に、誰かに見てもらえていることで安心し、やってみようとする気持ちが続いていくようです。

また、園庭では、縄跳びや玉入れなどを楽しむ子もいました。動きをよく見ると、「走りながら縄を跳んで、園庭の端まで行きたい。」「遠くから玉を入れたい。」など、一步先の目当てを考えながら取り組んでいるのが分かります。自分で目標を決めている時の表情は真剣ですが、思うようにいかなくても楽しそうに繰り返しています。難しいと思うことも、自分でできそうだと分かったら、失敗も受け入れながら楽しさに変えていきます。これまでも、多くの人に見守ってもらいながら何度も繰り返し取り組むうちに自信をつけ、乗り越えていくたくましさを学んだのだと思います。

さて、今年度も残りわずかとなりました。子どもたちの学びの記録である「ポートフォリオ」を見ながら一年間を振り返ると、いかに子どもたちが園生活の中で人や物と関わりながら、様々なことに気づき、考え、行動してきたかが分かります。また、写真に添えられた保護者の方からのコメントには、子どもたちが関心を向けたことや、「見てほしい。」と思っていることに寄り添う温かなメッセージがありました。子どもが見ている景色を横に並んで一緒に見ながら、何を感じているか、何を考えているかと肯定的に受け止めることは、このポートフォリオを通して積み重ねた成果でもあります。子どもたちには、自分のことを大切に見守ってもらえたと実感し、「今の自分には価値がある。」と気づきながら自信をもって巣立ってほしいと願っています。

ありがとう！ふくろ幼稚園

令和4年1月29日（土） ありがとうの会 開催

ふくろ幼稚園は、今年度末で45年の歴史に幕を下ろすこととなり、先日、地域の皆様、歴代園長ならびに教職員の先生方をお迎えして、「ありがとうの会」を開催しました。会場を飾った「森のアート」は、幼稚園での出会いに感謝しながら、毛糸や布を繋いで作成し、個性豊かな子どもたちを表した「豊かな森」です。

会の中で、子どもたちは、幼稚園で楽しかった思い出を、自分で考えた言葉で発表しました。一つ一つの言葉には、夢中になって遊んだ時の楽しい気持ちが込められていますので、文字にすると、驚くほどの長文でした。会を終えた今、子どもたちの中には、達成感とともに自信が生まれ、素敵な成長の機会にもなりました。

これまでふくろ幼稚園の教育活動に温かなご支援とご協力をいただいた皆様、子どもたちのためにご尽力いただきまして、誠にありがとうございました。この森の情景とともに、思い出がいつまでも温かく心に残りますように。

